

バイオサイエンス学科 学会発表

【発表者について】アンダーラインは本学教員および研究員、○は発表者、※は大学院生、卒研生または卒業生

学会名	日本植物生理学会2016（平成28年）第57回大会 <a href="http://jspp.org/annualmeeting/57/">http://jspp.org/annualmeeting/57/</a>
演題名	群体性緑藻フタヅノクンショウモの無性生殖サイクルに関する光調節因子の解析
発表者	○宮本なるみ[1]※、加藤翔太[1],[2]、篠村知子[1],[2] [1]帝京大学大学院・総合理工学研究科、[2]帝京大学理工学部
内容	<p>群体性緑藻フタヅノクンショウモ (学名 : <i>Pediastrum duplex</i>) は、4 -64個の細胞から1つの群体を構成する。その無性生殖サイクルでは、多核化、細胞質分裂、遊走子の放出という段階を経て新しい群体を形成する。本研究では、フタヅノクンショウモの無性生殖サイクルの進行に光照射がどのように影響を及ぼすのかを解析した。その結果、暗所でも光合成産物である糖(グルコース)を添加すれば多核化が進行すること、多核化後の遊走子・新群体形成には光シグナルが必要であることが示唆された。</p> <p>本研究の一部は私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「植物オキシリピンの生理機能の解明とその応用」、および科学研究費補助金(基盤研究C)の支援を受け、H27年度の本研究室の卒研生で本学大学院に進学した大学院生が主に担当した。</p>
関連画像	